

タイトル:平成 23(2011)年度 研究セミナー

日程:平成 23 年 12 月 19 日(月)～21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「中東民主化とシーア派勢力台頭のメカニズム — 1970 年代以降のイランの事例を中心として」
奈須 健(大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程)

今回の研究セミナーは、私にとって経験したことのないことの連続でした。まず、1 時間の発表。これまで 20～30 分程度の発表は経験してきたのですが、今回はその倍以上の発表でしたので、私にとって未知への挑戦でした。また更に 1 時間のコメント及び質疑応答も準備して頂きました。博士論文執筆において途中の構想で行き詰まっていた私にとって、中東の専門家である先生方に多くのアドバイスを頂けたことに、これ以上の機会はないことであり、心底感謝しております。

また、今回は私を含め 7 名の参加者がいたのですが、どの方も自分の研究に取り組む熱意がセミナーの中で随所に感じられ、すごくいい刺激になりました。研究分野も多種多様であって、自分の専門外のことなので、発表の内容に対してどれだけ理解できていたかわかりませんが、発表する姿勢や態度も今回非常に勉強になりました。事前に予習用として各参加者の作成した資料に目を通していたのですが、同じ中東地域でもあらためてこの地域を研究することの奥深さを感じることができ、異なる研究分野でも知りたいという欲求が出てきて質問もさせて頂きました。このように非常に充実したセミナーの内容でしたので、3 日間という日程もあっという間に終了してしまいました。本当に有意義な研究セミナーであったとつくづく感じております。

そして、何と言っても先生方のご意見やアドバイスが非常に勉強になりました。私の研究分野での視点が、また別の角度から捉えることで、これまでの個人的なイスラームの概念とは異なったものが見えてきました。主である司会者の先生のみならず、他の先生方も博士論文を良いものへ仕上げるにはどのようにしていけばいいのか、決して押しつけではなく、こういう観点もあると、私自身で考えるように様々なヒントを与えて下さいました。その結果、自分の中に更なる研究に対するモチベーションも上がってきました。このような素晴らしい機会を与えて下さった、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の皆様方に、改めまして感謝申し上げます。